

2019 年度自己評価

1. 教育理念・教育目標

<p>教育理念</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 神を第一として共に生きる真実の人間形成 ・ 聖句『光の子として歩みなさい』（エフェソの信徒への手紙 5 章 8 節） <p>教育目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 神さまに愛され守られていることを知る ・ 自分らしくのびのびと表現する ・ 自分のこともみんなのことも大切に思う
--

2. 2019 年度の重点目標

<ol style="list-style-type: none"> ① キリスト教の精神に基づき、子どもも保育者も共に歩み育ちあう事ができるよう、願いと祈りを持って保育を行う。 ② 個々の子どもたちの成長の課題について保育者が共通理解を持って関わるのできる体制を整える。 ③ 家庭とのより一層の連携と相互理解を深めるための方策を実現する。 ④ 時代や状況の変化に対応し、守るべきものと柔軟に対応すべきものとを適切に見極めて運営する。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

区分	評価項目・内容	取り組み状況
1 教育課程 ・ 指導計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 園の建学精神や教育目標を理解している。 ・ 幼稚園教育要領を理解し、子どもの実態に即した教育課程の編成を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教育理念に基づく『理想とする子ども像』について会議を重ねて話し合い、教育目標を具体的な子ども像が思い描ける表現にした。 ・ 保育者も子どもも共に聖書の言葉に親しみ、教育理念が生かされるよう、合同礼拝の説教を牧師と共に保育者も担当した。 ・ 2019 年度の重点目標を具体的に定めて教育課程を編成した。

<p>2 保育内容・子どもへの対応</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 個々の子どもたちの成長の課題について保育者間で共通理解をもち、子どもの思いを受け止めながら丁寧に関わる。 ・ 子どもの思いや興味・関心を共有して、遊びを深めていく。 ・ 他のクラスの子ともと関われるように遊びの形態などを工夫している。 ・ 特別な支援を要する子どもに対して職員全員が理解し、専門機関とも連携して対応している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ クラス毎の保育会議を毎月行い、クラス担任と補助の保育者とが丁寧に保育を振り返り、個々の課題について話し合った。 ・ 北私幼の研修会で公開保育を担当したことをきっかけに、遊びの深め方や繋げ方を大切にした保育の見直しを行った。 ・ 上記の実践のために小川久恵先生（札幌国際大学短期大学部 幼児教育保育学科准教授）に指導を仰ぎ、4月から9月にかけて毎月ミーティングを行った。 ・ 専門機関と双方向に訪問・連絡を行い、理解と課題の共有に努めた。
<p>3 教師としての資質・能力・研修</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育や子どもの様子などについて保護者にわかりやすく伝え、信頼を得るように努める。 ・ 幼稚園教諭としての専門知識や技能を高めるために積極的に研修会に参加する。 ・ 職員間の業務分担を適切に行い、個人の能力を活かしながら協力体制を強化する。 ・ 健康維持に努めるとともに、仕事上の問題や悩みは早期に報告、相談して解決する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日常の保護者との関りにおいて、明朗な挨拶、明るい表情、わかりやすい表現での伝達を心掛けた。 ・ 映像を用いて子どもの様子を保護者会で伝え、コメント付きの写真で個々の子どもの様子を伝えるなど新しい試みも取り入れた。 ・ 年度途中での職員の異動・休職等による見直しが十分にできず、個人の負担が大きくなることがあった。 ・ 50代以上の職員の間ドック受診を開始した。 ・ 様々な悩みや困難を抱える職員が早期に解決に向かえるような環境を整える必要がある。

<p>4 保護者への対応</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・共に子どもの成長を喜び合うことができるように理解を深める対応を行う。 ・「子育て」についての諸々の悩みや相談に心を開いて 対応できるように、電話や連絡帳、家庭訪問、懇談会、保護者会等を充実させる。 ・保護者が自主的に取り組むサークル活動や、クラスでの茶話会等、保護者同士が関わる機会を設けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者と問題を共有し、共に悩むことも多くある中で、日頃からのコミュニケーションの大切さに気付かされた。 ・保護者の責任で登降園の送り迎えをしてもらうことで直接日々の会話ができていることのメリットを感じている。 ・保護者会の出席が年々減ってきている中で、開催方法や内容の見直しが必要が出てきている。
<p>5 安全管理</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・必要な安全点検を行うと共に、災害から身をも守るために必要な訓練と防災教育を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年間の避難訓練計画を策定し、不審者対応や預かり保育中の避難訓練等を新たに実行することができた。 ・訓練の度に防災教育をすることができたことは良かった。
<p>6 外部とのかかわり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の中で幼・少・保が積極的に連携して子どもの成長を見守る。 ・地域に根差す開かれた保育を推進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・幼少保の連携協議会への出席や卒園児を送り出した小学校の行事見学などを積極的に行った。 ・町内会行事や説明会への出席、子ども達による近所の公園の清掃活動等を行うことができた。
<p>7 環境に関して</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちの育ちにふさわしい環境整備を心掛け、必要な工事を行う。 ・虫などの生き物や植物の成長、季節の変化などに子どもが親しみ生活や遊びに行かせるよう考慮している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ホール中二階の高さを低くする、年少組の仕切りの開閉をしやすくする、トイレのドアを安全なものに取り替えるなどの工事を行った。 ・ダンゴムシの飼育や泥遊びなど、自然に興味を持って遊びを広げることができた。

7 その他	<ul style="list-style-type: none"> ・円滑に業務を進めるために ICT を導入する。 ・新しい制度に対応できるよう常に情報の収集や説明会への積極的な参加を心掛ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保育料の無償化や様々な子育て支援制度への対応により事務作業が増えている中、補助金を利用して ICT を導入した。有効な活用方法について模索中。 ・認定こども園への移行が将来的に困難になることが7月に判明し、幼保連携型認定こども園への移行準備と、それに伴う園舎新築の準備を開始した。
----------	---	--

4. 財務状況

公認会計士監査、幹事監査により適正に運営されていると認められた。又「2019年度経営状況調査」により、当園の財務は補助金への依存が高く、園児保護者からの徴収率が低いことが判明した。

5. 今後取り組むべき課題

- ① 保育の充実のための人材確保と、各人が充実して意欲的に仕事に向かえる職場環境を整える。新任教諭を採用したが本人の資質的理由により適応できず退職に至ったことは非常に残念なことである。保育科学生の幼稚園志望が激減している現状を踏まえ、人材確保のための有効な対策を講じることが大きな課題である。
- ② 幼保連携型認定こども園への移行に向けて行うべき様々な業務が予想される。園舎新築の準備、建築中の仮園舎での保育の計画と準備、制度の理解と申請の準備、保護者への説明、人材確保等、様々な作業を円滑に行うために、幼稚園役員と職員とが意思統一を図り、協力して相互に支えあい、意欲をもって前進できる職場環境を整えなければならない。